

令和5年度 地歴・公民科 「世界史A」シラバス

単位数	2単位	副教材等	
学年・学級	第3学年A～F組選択		
教科書	明解 世界史A (帝国書院)		

1 学習の到達目標

近現代史を中心とする世界の歴史を、諸資料にもとづき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、現代の諸課題を歴史的観点から考察することによって歴史的思考力を養い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容・学習活動	評価方法
第1学期	4	人類の始まり	自然環境と歴史	人類の登場と文明の構築、人間圏の形成過程を理解する。	授業への取り組み
		東アジアの文明		東アジア文化圏の特質を理解する。	
		南アジアの文明		南アジア・東南アジア文化圏の特質を理解する。	
	5	西アジア・北アフリカの文明	ユーラシア諸文明	西アジア・イスラーム文化圏の特質を理解する。	小テスト
		ヨーロッパの文明		ヨーロッパ文化圏の特質を理解する。	
	6	繁栄するアジア	結びつく世界と近世の日本	ティムール、オスマン、ムガル、明、清などの諸帝国が安定した支配と経済の繁栄を背景に文化の黄金時代を迎えたことを理解する。	提出物
		大航海時代と新たな国家の形成		ルネサンス、宗教改革、新航路開拓、主権国家体制の確立などの動きに触れ、世界の一体化への動きと新たなヨーロッパの枠組みとなった主権国家体制について理解する。	
7	ヨーロッパとアメリカの諸革命	資本主義の確立と国民国家の形成	産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立などを通じて、西ヨーロッパとアメリカに産業社会が成立し、市民社会及び国民国家の形成が進行したことを理解する。	定期考査	
			期末考査		
第2学期	9	自由主義・ナショナリズムの進展	アジア諸国の変貌と日本	19世紀後半のヨーロッパ・アメリカ社会を通して、自由主義とナショナリズムが進展していく様子について理解する。	授業への取り組み
	10	アジア諸国の動き		アジア諸帝国の弱体化や崩壊、ヨーロッパ諸国のアジア進出について理解する。	
		東アジアの大変動		アヘン戦争などの衝撃により伝統的な国際秩序が崩壊していく過程を通して、東アジアの大変動の様子を理解する。	
	11	現代につながる社会の形成	地球社会と日本	20世紀という時代の特徴を把握し、アジア・アフリカの植民地化の過程から、世界の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解する。	小テスト
		第1次世界大戦がもたらしたもの	世界戦争と平和	総力戦としての第1次世界大戦の様相、ロシア革命とソ連の成立、国際秩序変化など20世紀初頭の様相を理解する。	
	12	民族自決を求めて		インド・東南アジアの民族自決運動を通してアジアのナショナリズムの動きを理解する。	提出物
12	経済危機から第2次世界大戦へ		第2次世界大戦の原因や総力戦としての性格、その影響を理解し、平和の意義について考察する。		
			期末考査		定期考査

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第3学期	1	冷戦の時代	三つの世界と日本の動向	第2次大戦後の米ソの対立、AA諸国の民族運動と独立を理解し、核兵器問題やAA諸国が抱える問題などについて考察する。	授業への取り組み 小テスト 提出物 定期考査
		冷戦終結への道のり		冷戦終結に至る過程とその後の世界の政治・経済の動向について理解し、日本が世界の諸国・諸地域と共存する方向などについて考察する。	
			学年末考査		

3 評価の観点

関心・意欲・態度	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と疑問を持つ姿勢を忘れずに、常に意欲的に取り組もうとするとともに、国際社会の一員としての自覚を持ち、その責任を果たそうとしているか。
思考・判断	近現代史を中心とする世界史の知識をもとに、人類の抱える諸問題を世界史的視点に立って幅広く考察するとともに、国際社会の変化を常に敏感に察知して公正に判断しようとしているか。
技能・表現	近現代史を中心とする世界の歴史に関するできうる限りの資料を調べ、有効資料を選択し活用することを通して歴史的事象を追及する術を身に付けるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現しようとしているか。
知識・理解	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を幅広い視野に立って理解し、その知識を身に付けようとしているか。

4 評価の方法

「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」の4観点から、評価基準に従い総合的に判断・評価する。
--

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

世界史はなじみの深い日本史と比べると「拒否反応」がある生徒諸君も多いようです。しかし、世界各地の情報が飛び交う現代社会においては、やはり勉強しておくことが絶対が必要です。だから高校でも必修となっているのです。また、世界史にはとても魅力的な人物がたくさん登場し、面白いエピソードを残していたりします。ですから生徒諸君にはまず先入観抜きで、世界史に興味・関心を持ってもらいたいと思います。
--